

よみさんぼ

大宮見沼



第10号

写真家 野口勝宏

やどかりの里発！ 地域発見マガジン

特集 ヨーロッパ野菜で
「自立する農家」へ

編集 公益社団法人やどかりの里「大宮見沼よみさんぼ」編集委員会



特 集 ヨーロッパ野菜で 「自立する農家」へ

森田 剛史さん

さいたま市岩槻区^{かぎあげ}の釣上地区は、埼玉高速鉄道の浦和美園駅より東に約1キロ、田畑と住宅が入り混ざるのどかで落ち着いた田園地帯。周辺地域では、地元伝統野菜である山東菜、岩槻ねぎ、クワイをはじめ、小松菜、ホウレンソウ、ルッコラ、水菜など、葉もの野菜の栽培が盛んだ。昨年（2013年）1月、就農して7年目だった森田剛史さんは「さいたまヨーロッパ野菜研究会」*¹⁾に参画。ヨーロッパ野菜の栽培で「自立する農家」への活路を模索し始めた。

—森田さんが農業を営むきっかけについてお聞かせてください。

「地元の高校を卒業し、銀座の日本料理店の板前をしていました。7年ほど働き、ステップアップのために環境を変えて他のお店に移る予定でしたが、いったん実家に戻ることにになりました。その時期に何気なく農作業を手伝っていた

ら、そのまま農家になっちゃったって感じなんです。実は、板前辞める宣言も、農家やる宣言もした覚えはないんです（笑）

ー栽培している農作物について教えてください。

「岩槻は昔から葉もの野菜の栽培が盛んで、うちは昨年春まで1ヘクタールの土地で小松菜を栽培していました。田んぼは、他の人に貸して耕作をお願いしています。野菜の栽培は大量生産の時代、小松菜も量が一定ないと利益はあがりません。生産者は市場に卸す価格を決められないんです。市場任せで1束100円以上の時もあれば30円になる時もあります。安定して一定量を供給し続けることは、小規模な家族経営では限界があります。そこで今は、仲間とともにヨーロッパ野菜の生産で活路が見い出せないか奮闘しているところです」

ーヨーロッパ野菜に注目したきっかけを教えてください。

「地元若手農業者の集まりである4Hクラブ*²⁾に、さいたま市から声がかかったんです。ちょうど小松菜生産への限界を感じていた時でした。説明会には岩槻以外のグループも参加していましたが、試しにやってみようと思いをあげたのが僕たちのグループでした。それが去年（2013年）の1月です。そして、レストラン経営の社長が発起人になって『さいたまヨーロッパ野菜研究会』を発足しました。僕も会のメンバーで、月1度の情報交換会や勉強会に参加しています。研究会では、業種、業態の違う仲間が集まります。僕たちもこんなもん作って売れるのかっていうのが第一印象だったんです」

ーヨーロッパ野菜について教えてください。

「最近、スーパーでも、カリフラワー似のロマネスコや白いポテツとしたイタリアン野菜ではポピュラーなフィノッキオが売られていますが、まだまだ一般的ではないと思います。僕も初めは、ズッキーニとロマネスコくらいしか知りませんでした。今では年間17～18品種を扱っています。秋には10種類くらい作りますが、今は品種は少なく、花ズッキーニ、スティッキオなどを作っています。出荷先は主にさいたま市内のイタリアンやフレンチ、中華などのレストランです。新鮮さが売りで、多品種を扱う少量栽培での生産となります。少量といっても、出荷量は1品種5,000から10,000株です。最初は栽培に苦労

しましたが、ヨーロッパ野菜も所詮野菜です。気候や条件を整えれば育てられます。1年前は今の1/10の生産量で、種類もそれほど多く扱えませんでした」



ヨーロッパ野菜スティッキオ

—ヨーロッパ野菜の生産と需要について教えてください。

「くまなくさいたま市内の洋食レストランに卸すようになると、

もっと量が必要です。僕たち数10人がやってるだけでは間に合いません。ましてや都内にはお客さんもレストランもいっぱいあります。資本力のある企業の参入は心配ですが、僕たちは先行してどこよりも早くやっています。そのために生産の技術を確認させ、品質の良いものを作り、買い手の満足が得られる努力はしてきました。僕たちより少し先に始めた新潟県の燕三条のグループがありますが、そこと連携して出荷量の安定化を考えているところです。今、ようやく面白くなったというのが実感です。ここ1年で、違う業界の人たちと出会う機会がものすごく増えました。これまでは、レストラン業界の人たちとはほとんどお会いすることはありませんでした。同業者の間でも、他の地域の人たちとの交流が増えましたし、こうした交流の場が増えたことがいちばんの変化だと思います。そして1年が経過し、やっと軌道に乗ってきました。去年の秋頃は売り先にすごく困っていたんです。今は研究会で営業と販売、生産の仕組みができていて、それぞれに役割があります。そして何よりも作った野菜の品質が評価されていますので、そのことがやりがいと自信につながっています」

—農業にかける思いを聞かせてください。

「実は、僕はここが実家ですけど、妻は茨城県出身で、結婚後も勤めを続けていたので、住まいは千葉県野田市です。通いで農家をやっているんです。今は父親と私が主な働き手です。小松菜からヨーロッパ野菜へ生産がシフトしたことに、父は何も言いませんでした。僕の考えを尊重してくれているようで、今

やってることも応援してくれています。小松菜の生産も同じですが、毎日安定して同じ数を作ること。同じ品質のものを同じように出すことがいちばん大変なことです。そして、安全でおいしい農産物を消費者に届けて、食べた人に喜んでもらいたいという気持ちでいっぱいです。地産地消といっても、市場に卸すと消費者の反応を知ることが難しいのですが、レストランに直接卸すので、調理する人や実際に食べてくれるお客さんの反応が直に確かめられます。生産者にとってとても良いことですし、これまでにない画期的なことだと思います。

何かを始める時、仲間を見つけることは大事だと思います。1人で根詰めてやるのもありだと思いますけど、面白みが違うと思います。やるんだったら楽しくやったほうが絶対面白いです。そこに収入がついてくるかは知らないですけどね（笑）。農業は、ほんとうに可能性を含んだ商売だと思います」

日本の農業のこれからが大きく変わろうとしている今、仲間をつくり、楽しく、かつ真剣に頑張る若い農業者たちがいます。

森田さんの淡々とした受け答えの中には、農業への確かな情熱と自信を感じました。そして、他業種、他職種と連携しながら農業を盛り上げていこうとする森田さんから、たくさんの勇気と元気をいただきました。

（インタビューアー 宗野政美）

* 1) さいたまヨーロッパ野菜研究会

さいたまエリアで、珍しいヨーロッパ野菜を栽培して美味しく食べるプロジェクト。2013年4月より、さいたまエリアの若手農家15件と・種苗会社・青果卸・レストランシェフなどが協力して作ったグループ。さいたま産ヨーロッパ野菜の栽培と地産地消に取り組んでいる。（さいたまヨーロッパ野菜研究会フェイスブックより）

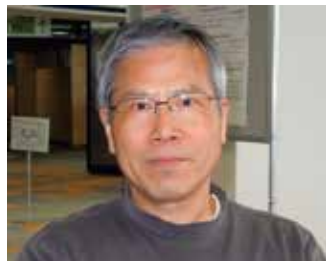
* 2) 4Hクラブ（農業青年クラブ）

将来の日本の農業を支える20～30代前半の若い農業者が中心となった組織。農業経営についての身近な課題の解決方法を検討したり、より良い技術を検討するためのプロジェクト活動。消費者や他クラブとの交流、地域ボランティア活動を行っている。現在、日本全国に約850クラブ、約1万3千人のクラブ員がいる。4Hとは、農業の改良と生活の改善に役立つ腕（Hands）を磨き、科学的に物を考えることのできる頭（Head）の訓練をし、誠実で友情に富む心（Heart）を培い、楽しく暮らし、元気で働くための健康（Health）を増進するという、同クラブの4つの信条の頭文字の総称。（農林水産省HPより）

やどかりの里の仲間たち・9

やどかりの里で進めている研究活動などを中心に、常に客観的な視点でアドバイスしてくださる花岡進さん。今回は、そんなやどかりの里の応援団の1人、花岡さんをご紹介します。

枠を超えた活動に期待



花岡 進さん (66歳)

私は大学卒業後、32年間企業で働いていました。40歳を過ぎたあたりからは、読書を習慣化してきました。仕事だけでは視野が狭くなると思ったのです。若い頃から聴いていたバッハの音楽、そして読書を嗜む時は、私にとって至福の時間でした。この2つの趣味があれば、私は生きていけると思っていました。しかし4年前、長く連れ添った妻を亡くし、悲しみに暮れる日々が続きました。

時の流れの中で、徐々に新たな一歩を踏み出す気持ちになり、よき伴侶に恵まれました。彼女が私を気に入ってくれた理由の1つは「言葉の力」だそうです。読書で培われてきた何かがあったのかもしれません。

私がやどかりの里の活動に関わるようになってから、3年が経ちました。私は退職後、埼玉大学の大学院の研究会に出入りしていて、そこで出会った知人の紹介で、やどかりの里の研究会に顔を出すようになったのです。

やどかりの里は雰囲気^{かつたつ}が心地よく、自由闊達かつ形式ばらないところが魅力です。

やどかりの里には、もっともっといろんなことに踏み込んで欲しいと思います。企業でもそうですが、活動していると、だんだんその枠に馴染んでいきます。その枠の中で活動するほうが楽だからです。しかし、あえてその殻を破って欲しい。それはやどかりの里という枠を超えて、いろんな分野の多様な人たちと新しい関係をつくるということ。そして社会にとってのやどかりの里の本来の役割について、原点に立ち返り、やどかりの里でないとできない“何か”をつくり続けて欲しいと思います。私も、出来る限り客観的な視点で関わっていきたいですね。



よみさんぽ 目誌

60年ぶりの夏祭り復活

見沼区染谷の八雲神社では、毎年7月14日に「天王様」のお祭りが行われています。60年前まで、飾り付けられた万灯を若い衆が振りながら巡る盛大なお祭りが行われていました。長い年月眠っていたお神輿や山車が姿を現したのが2年前、昨年は「ふるさと発見！子どもまつり」など学校内で中学生たちが担ぎました。今年4月、「片柳伝統文化保存会」が発足。八雲神社の氏子、染谷自治会、地元小学校校長、中学校校長、片柳公民館館長、青少年育成片柳地区会、そして発起人である黒白洋蘭店の黒白秀之さんなど地元の人たちで、60年ぶりの夏祭りの準備が進められてきました。

本番当日は夏祭り日和。中学生たちも法被に着替え、お神輿、万灯振りなど役割ごとに分かれ、準備は万端。さあいよいよ出発です。中学生たちが練習してきたお囃子や「わっしょい、わっしょい」の音が響き渡ります。山車の引手には、近隣の幼稚園生や障害者施設の人たちも飛び入りで参加。山車の高さは4メートルを越し、時折、竹を使って電線を持ち上げ、住宅街の曲がり角では消防団の人たちが掛け声かけて山車を方向転換します。

1.2kmの道のり、顔を真っ赤にしながらかけ声あげる子どもたち。大人たちも玉の汗。「言い出しっぺで始めたが、自分も年をとっていくし続くかなあ」「大丈夫だよ、中学生たちが後を継いでくれるよ」「わっしょい、わっしょい」、声を振り絞り狭い路地を抜けて神社にゴール。三本締めで締め括ります。アイスやジュースが振る舞われ、ほおばる子どもたちに笑顔がこぼれます。「みんなが社会人になってこの街から離れても、7月の第2土曜日は夏祭りにと帰って来てくれるようになったら嬉しい」、大人たちの思いはきっと届いているでしょう。

(記 永瀬恵美子)

あの街 この街 俊一郎が行く・4

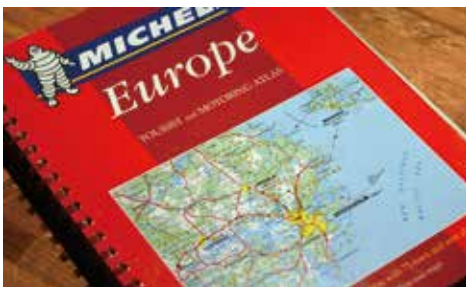
旅とトラブル

ささやかな冒険心

こんにちは！先日、シンガポールに行ってきました。南国特有の「モワ！！！」とした空気は、異国に来たという実感を与えてくれます。その感情は、学生の頃に行ったヨーロッパ旅行の時も同じでした。堅実な両親のもとに生まれて、危機にさらされることや不自由な思いをせずに育ってきたからこそ、危険にふれてみたい。その気持ちが冒険心であるならば、その旅行も私にとっては、ささやかな冒険だったかもしれません。

グランド・ツーリング

学生時代のその旅行とは、シンガポール経由でドイツに向かい、スイス、イタリア北部、フランス、チェコ、オーストリアを友人とまわる延べ4,000キロの旅です。建築物や街並みを見てまわるために移動手段として選んだのはレンタカー、それに寝泊まりしながらめぐる旅の予定でした。空港で受取ったレンタカーは三菱。左ハンドルや右側通行には意外なほどすぐに慣れ、よく整備された道路、通行する車も（ペースは早いですが……）概ね紳士的で、快適な旅行。バケーション時期のヨーロッパは街道沿いに旅行者も多く、車内泊でも安心。車でなければ、行き着くことが難しいような山奥の教会を見たり、通りすがりの民家のテラスで食事をする家族に声をかけてもらい、地域の伝統的な住宅の内部を見学したり、電車であれば知らずに通過している名も知らぬ街の風景に驚いたり……お目当ての新旧の建築物以外にも得るものの多い旅は、大陸を実感する距離感とともに、日々充実感を与えてくれます。毎夜眠りにつく時は、まだまだ続く旅路にワクワクしました。



とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）



気の弛み

ドイツ南部からしばらくスイスを巡り、フランス南部に入りました。旅も前半を終えつつあり気も弛んでいた頃、トラブルは起きました。

国が変われば道路のつくりも変わるもので、それまで高速道路を走っていて、そのつもりで走っていたら、カーブの向うに踏切が……減速も間に合わず、車は、踏切の段差で跳ねて道路を外れ、電柱に側面をぶつけた後に一回転して停まりました。

助手席の私は割れたガラスで軽い切り傷を負いましたが、運転していた友人は無傷。そして単独の事故だったことが不幸中の幸いでした。通りがかりのトラックドライバーが、警察や救急隊などへの連絡をしてくれました。見ず知らずの人がかけてくれた毛布を被りつつ、待っていると警察が到着。こちらからは事故状況の説明をし、警察官からは事故車は近所の決まった場所に移動され、一時保管されるので翌日取りにくることや、今後の事故処理などについて説明を受けます。続いて救急車に乗せられ、近隣の街の病院に搬送されました。多少、動転しましたが、救急隊のチーフのマダムとたわいのない会話を交わしているうちに落ち着いてきました。病院で切り傷の治療を受け一通りのことが済みましたが、病院を出て冷静になってみて最初に思ったのは、「ここは何処？」

撤退か続行か

移送された病院があるのは、名も知らぬ街。そして移動手段であり、寝床でもあった車を失ったのですから、まず今夜の宿を確保しました。誰が言ったか、難しい話は空腹時にするなという教えに従い、適当な食堂を探します。食事をして人心地ついたところで、旅の撤退か続行か、友人と思案しているうちに前回のF先生の授業のことを思い出し、これも旅なんだよなと思い始めていました。そして、友人の気持ちはさておいて決断しました。

「トラブル……これも旅、続行しよう」と。（つづく）

あなたの街のやどかりさん

やどかり情報館

地域に役立つ事業所として

大宮駅東口を背にして、バス通りを直進、東新井交差点を左折するとまもなくさいたま市営霊園入口の看板が見えてきます。そこを右折し、歩いて12、3分のところに茶色い2階建ての建物があります。そこが今回ご紹介する「やどかり情報館」です。数年前の夏休みに子どもたちが「やどかり」見せてくださいと訪ねてきたことがあります。そんな勘違いをされてしまうこともあるのですが、やどかり情報館は、公益社団法人やどかりの里が運営する障害のある人の働く場なのです。30名ほどの人が働いています。

自動ドアから入ると、左側に3つの部屋があり、パソコンに向かってたくさんの方が仕事をしています。右側には本の倉庫があり、ここから全国に向かって本が発送されます。廊下を歩いて扉を開けると印刷所です。オフセット印刷機や丁合機、製本の機械が動いています。印刷所の一角にある小さな部屋にもたくさんのパソコンが並び、WEBデザインをはじめ、IT関連の仕事を行っています。やどかり情報館では、本の企画から編集、印刷まで一連の作業を担っています。

2階は、80名ほどの人が集まって研修や会合が開けるホールになっています。ご希望があれば、会場を貸し出すこともできます。

やどかり情報館には出版や印刷以外にもいろいろな仕事があります。地域のお祭りなどでおなじみなのが、ポップコーンの出張販売です。〇〇ランドにあるようなポップコーンマシンを携えて、出店しています。また、市営霊園の植栽管理などの仕事もさいたま市からの委託を受けて、近隣の障害のある人が働く事業所とともに行っています。



第10回

1997（平成9）年、自然豊かなさいたま市見沼区染谷に、やどかり情報館が開設されました。ここでは障害のある人たちが、主に出版や印刷の仕事をしています。

1997（平成9）年に始まったやどかり情報館ですが、見沼田んぼに代表される農業地帯にあり、見沼の自然を守るため、障害のある人の新たな仕事起こしを目指して、農業を仕事の1つに加えられないかと検討中です。

障害があっても働きたい、という思いをもつ人たちはたくさんいます。自分の仕事が社会の役に立っているという実感を得られることが、病気や障害の回復に大きな力になっていきます。やどかり情報館は、地域の皆様に役立つ事業所を目指しています。

- * ポップコーンの実演販売をぜひ頼みたい！
 - * 名刺や封筒・はがき、お店や会社の案内を作成したい！
 - * 自分のこれまでの生き方をまとめてみたい！
 - * 会議を開催したが、記録のためのテープ起こしを頼みたい！
 - * 会合を開きたいので部屋を借りたい！
 - * 空いた土地を活用してもらいたい！
 - * ちょっと興味があるから見学したい！
- ぜひお気軽にお電話ください。

やどかり情報館

さいたま市見沼区染谷 1177-4
048 - 680 - 1891, 1892, 1893



困った時に駆けつける 助っ人

白石 正喜さん

(埼玉クスダオフ機材株式会社)



やどかり情報館(見沼区染谷)の中には、街の印刷屋「やどかり印刷」があります。やどかりの里が印刷業務を始めたのは、1970年代のことです。当時から応援してくださっているのが、埼玉クスダオフ機材株式会社の代表取締役社長白石正喜さん。今回は白石さんにお話を伺いました。

印刷機材を通じた出会い

空手3段、体格もよく、どっしり構えた白石さんですが、その実とってもシャイな方。冗談交じりに、また“親父ギャグ”も炸裂し、やどかりの里の思い出話に花が咲きました。

白石さんとやどかりの里とのお付き合いは、38年前に遡ります。

1976(昭和51)年、やどかりの里では、障害のある人たちの「自分たちの働く場を創っていきたい」という思いから、印刷事業をスタートし

ようとしていました。

「そこで古い印刷機を使って練習できないかって話しがあってね、私のほうで中古の印刷機を持っていったんだよ」と白石さん。

その印刷機とともに、翌年(1977年)「きさらぎ印刷」が誕生しました。けれど、精神障害当事者とボランティアで始めた印刷業務は日々手探り。そんな素人集団に、白石さんは親身になって印刷技術を教えてくださったのです。

プロの印刷屋さんを目指して

その後、きさらぎ印刷は1979(昭和54)年に「NSP印刷」へと名前を変えました。この「NSP」の由来は……「N(なんて)S(すごい)P(プロみたい)」です。これは「素人から始めた印刷業務が少しでもプロに近づくように努力していこう」という思いを込めたネーミングでした。

(現在はやどかり印刷)

プロを目指した当時の職員は「トラブルがあると毎日のように近くの機械屋さんを呼んで教えてもらった」と語っており、この機械屋さんこそ白石さんだったのです。

さて、やどかりの里は、精神障害のある人たちとともに活動している団体。白石さんは、そのことをご存じだったのでしょか……

「知ってたよ。山形コロニー^注や青森コロニーに印刷機械を入れていて障害者団体とはなじみがあったんだ」

常に見守ってくださる助っ人

そして1997(平成9)年にやどかり情報館を開設する際にも、白石さんとともに印刷から製本までのシステムを検討し、具体化してきました。白石さんは、今も変わらずやどかり印刷に足を運んで、いろんな相談にのってくださっています。

やどかり情報館にとって白石さんは、困った時の助っ人なのです。どうしてこんなにもやどかりの里を応援してくれるのでしょうか。

「自分のメリットは求めてないよ。でも蓄積したノウハウ、自分の

注) コロニー：戦後、結核の後遺症に苦しむ患者たち自身が自立のために立ち上げた生活、仕事の場

力で何か手伝えなかっていうのは常に考えてるね。やどかりさんの話を聞くのが自分の役割だと思ってるよ。活用できるものは活用して、お互い頑張っていきましょう」

やどかりの里だけでなく、全国にネットワークを張り巡らされている白石さん。時にやどかり印刷に必要な人材を送り込んでくださいます。

お話を伺った時、白石さんの襟元を飾っていたのは、シックな色合いの素敵なネクタイでした。

「これはお世話になった会社の社長の奥さんが『白石さんにはお世話になったから』ってくれたネクタイなんだよ。その気持ちを大事にしたいよね。普段はつけないよ。シミが付いて汚れちゃうから。でもやどかりの里からのインタビューってことで、今日はびしっと決めてきたんだ」

好奇心の塊で、地元山口県へのふるさと愛にあふれ、人一倍人情に厚い白石さん。地域でやどかりの里を支えてくださっている方の存在の大きさを実感した一時でした。

(記 萩崎千鶴)

埼玉クスタオフ機材株式会社

本社 さいたま市緑区三室 1194-4

TEL 048-873-5325

<http://www.saitamakusuda.co.jp/>

インフォメーション

大切な衣類は安心安全の

クリちゃんマーク

のお店へ

クリちゃんマークはクリーニングの専門店のしるしです



春日ランドリー

〒337-0013 さいたま市見沼区新堤 152
東宮下団地 19-5

TEL 048-685-0811

OA機器

事務機器

オフィス用品

ソフトウェア のことなら

主な取扱商品

印刷機・複合機・FAX・事務用品・幼稚園ソフト

地域に根付いて36年
 **教育産業株式会社**
<http://www.kyouikusangyou.co.jp>

さいたま市見沼区南中野301-1 TEL:048-685-0855
FAX:048-685-0726

暑さ
到来!

味はもちろん

安全・安心な **梨** をお届けします!!

公益社団法人やどかりの里では、毎年美味しいとご好評を頂いている埼玉県白岡町特産の梨を販売いたします。ご家庭用に、またご贈答用に最適な品質と味です。是非一度ご賞味下さい。

梨の一口メモ

梨の果実にはアスパラギン酸【疲労回復、利尿効果】と、特有の糖分としてソルビトール【血糖値が上がらない糖分として医学界注目】が多く含まれています。たくさん食べても安心、夏バテに最適な果物といえます。

江原梨園さん

(やどかりの里会員) の特徴

☆ **高級有機質肥料!** で味と品質を追求しています。

魚粉・菜種粕・大豆粕などを使って栽培された品質、味ともに最高の梨。

☆ 農薬を極度に抑え、**自然素材の防虫効果!** で安全、安心。

木酢液、ボンドエキス(カツオエキス)を併用して、安全、安心への丁寧な心配り。

品種の特徴

豊水 知名度の幸水、味の豊水! 名前の通り豊富な水分でサイズのわりに手にズッシリ。豊水特有の甘味と水分、酸味のバランスがとれてます。

あきづき 「豊水×新高」×幸水をかけあわせ、糖度も高く果汁も豊富です。果肉はち密で酸味も少なめ、しゃりしゃりした食感です。

新高 新潟県と高知県の在来種を交配して誕生、両県の「新」・「高」が名前の由来です。実が大きく食味はやわらか。特有の甘味も爽やかです。

【販売元】公益社団法人 やどかりの里 就労継続支援 B 型事業所 ルポース

〒330-0834 さいたま市大宮区天沼 1-136-2 Tel/Fax 048-657-0202

-すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために-

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)

この道30年の職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

- 鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。
- 障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890 (担当オガワ)

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL:048-854-6890 FAX:048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)

●さいたま障害者労働センター(桶川市)

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえてホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区)

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター栄夢 ●地域活動支援センター栄夢(以上、中央区)

●見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)



作者紹介

写真家 野口勝宏さん

1959年猪苗代町生まれ。写真家。「福島の花の美しさで世界の人々を笑顔にしたい」と花作家・橋本和弥氏とともに「Flowers of Fukushima」シリーズを制作。本年開催された福島県観光キャンペーン「ふくしまプレDC」においてJR東日本のメインイメージに起用され、駅構内や車両装飾を彩る。また、キャノンギャラリー銀座・梅田・仙台・札幌での個展を開催。著書に「ここは花の島」などがある。11月には成田国際空港でも写真展開催予定。同シリーズの作品は <http://noguchi.jp>にて閲覧可能。

表紙：草芙蓉^{くさふよう}

朝咲いて夕方にはしほむ1日花。

はかない命を補うように次々と蕾をつけて花開いていきます。

今日咲いた花と、あした咲く花はきつとどこかが違うはずだと言い聞かせながら。

題字 宗野文さん

学生時代から書道が大好きで、子育て中の今、我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第10号

発行 2014年7月(夏号)

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<http://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

* 弁当の調理・配達パートさん募集

やどかりの里が運営しているまごころでは、日替わり弁当の製造・販売を行っています。昼食弁当の調理と配達をするパートさんを募集しています。(主な配達地域は中央区周辺)

曜日/木・金 時間/8:30~12:30

詳細は直接お問い合わせください。

まごころ (中央区本町東5-9-7)

TEL 048-857-2783 (担当 檜山^{ひやま}うつき)

自分史や自伝を

本として残しませんか?

出版のプロが安心と信頼の技術を提供・サポートします

やどかり出版 さいたま市見沼区染谷 1177-4

Tel.048-680-1891 Fax.048-680-1894